

---

## 三溪園開園 120 周年記念イベント第 1 弾

# 横浜・三溪園 国指定重要文化財「臨春閣」特別公開

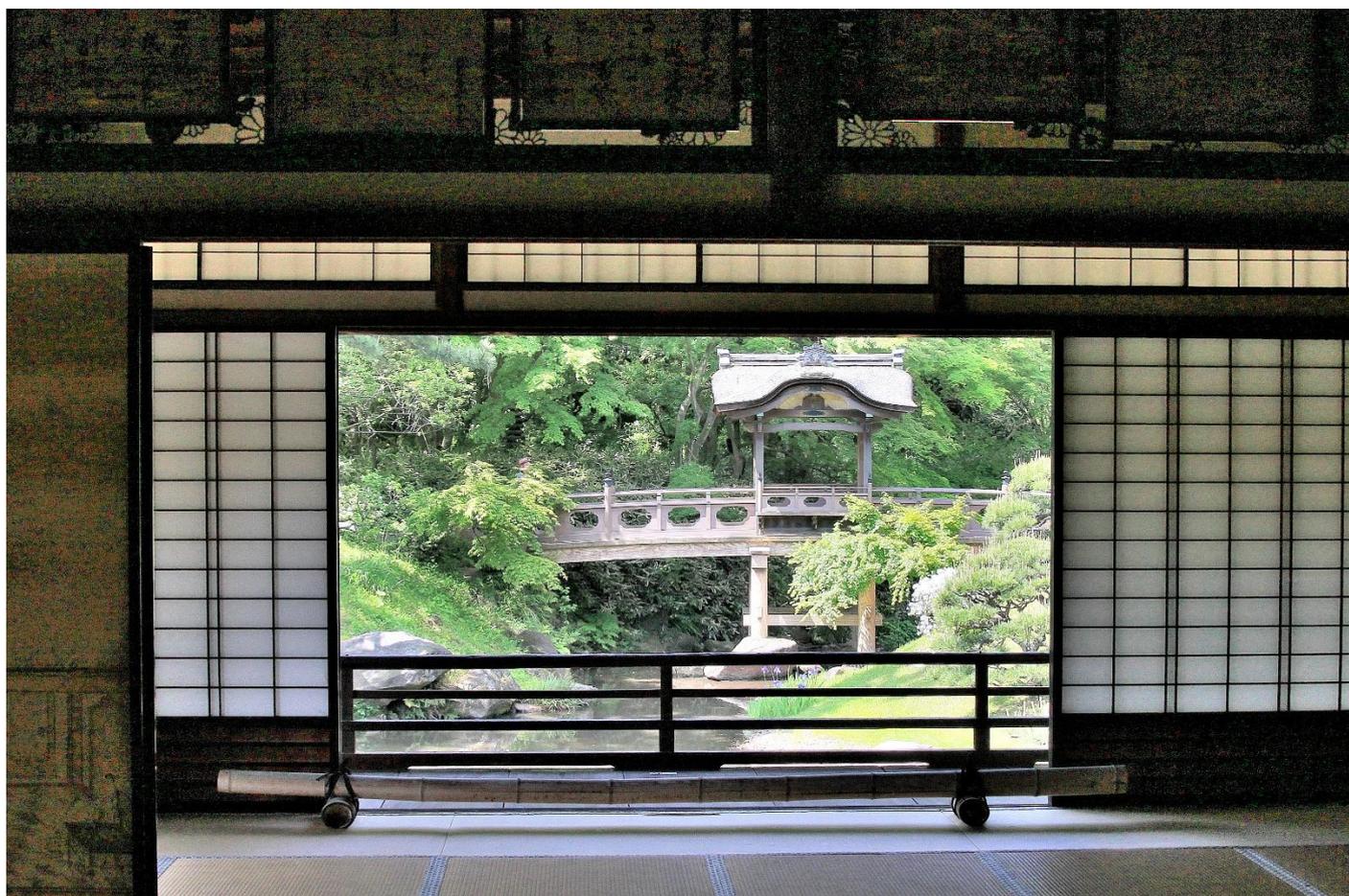
### ゴールデンウィークに数寄屋の名建築を内部公開

---

国指定名勝「三溪園」(所在地：横浜市中区)では、2026年4月29日(水・祝)～5月10日(日)に国指定重要文化財建造物「臨春閣」の特別公開をおこないます。三溪園開園120周年を記念したイベントの第1弾で、「神奈川・横浜デザインレーションキャンペーン プレキャンペーン」関連企画としても位置付けられています。

臨春閣は、三溪園の創設者・原三溪がとりわけ情熱を注いで移築を行った建造物です。屋根の素材や形、池に面して3つの棟をずらして連結させた建物の配置など、外観は三溪自らが理想とする形にアレンジされています。一方、内部は移築前の状態が保存されており、狩野派等の絵師による障壁画や、和歌がしたためられた色紙をはめ込んだ欄間など、江戸時代の洗練された数寄屋風書院造の意匠をご覧ください。

建物内から眺める新緑の庭園も見どころです。どうぞお楽しみください。



## ■臨春閣特別公開

日程 | 2026年4月29日(水・祝)～5月10日(日)

時間 | 10:00～15:50(各回15名様、各回20分・完全入替制)

①10:00～10:20 ②10:30～10:50 ③11:00～11:20 ④11:30～11:50 ⑤12:00～12:20 ⑥12:30～12:50  
⑦13:00～13:20 ⑧13:30～13:50 ⑨14:00～14:20 ⑩14:30～14:50 ⑪15:00～15:20 ⑫15:30～15:50

料金 | 1,000円(税込、入園料別途)

対象 | 小学生以上

申込 | 事前予約制

オンラインサービスPeatixにて3月29日(日)10時より販売開始

<https://peatix.com/event/4921253/>

※歴史的建造物のため、段差や狭い通路がありバリアフリーには対応していません。ご了承ください。

### 【臨春閣(国指定重要文化財)】

1649(慶安2)年に、現在の和歌山県岩出市の紀ノ川沿いに建てられた紀州徳川家の別荘「巖出御殿」と考えられている建物。

1906(明治39)年に原三溪が入手後、11年をかけて念入りに配置を吟味し、1917(大正6)年に三溪園に移築されました。

移築当時は、豊臣秀吉が千利休に意匠を任せ京都に造営した聚楽第の遺構と伝えられていました。三溪はこの由緒を受け、秀吉ゆかりの建造物や石造物などを周辺に配し、内苑を桃山風の空間に造りあげました。

## ■国指定重要文化財「旧天瑞寺寿塔覆堂」特別開扉 三溪園開園120周年記念

日程 | 2026年5月9日(土)～5月17日(日)

時間 | 9:00～16:30

料金 | 無料(入園料別途、申込不要)

内容 | 1591(天正19)年に、豊臣秀吉が病気から快復した母・大政所の長寿を祈って建てた生前墓(寿塔)を覆っていた建造物。1905(明治38)年に三溪が内苑に移築した最初の古建築です。桃山時代らしい手の込んだ華麗な彫刻や重厚感のある入母屋屋根は通常時でもご覧いただけますが、本期間中に限り、戦後に復原した色鮮やかな彩色が残る内部をご覧いただけます。

(建造物保護のため、外からの見学となります。)



## ■新緑の遊歩道開放

日程 | 2026年4月11日(土)～5月10日(日)

時間 | 9:00～16:30

料金 | 無料(入園料別途)

会場 | 聴秋閣周辺

内容 | 新緑が美しい内苑の「聴秋閣」奥の遊歩道を特別に開放します。溪谷沿いの道からの三重塔を遠望する、古建築と新緑が織りなす絶景が見どころです。



## ◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって創られ、1906(明治 39)年 5 月 1 日に一般公開されました。約 17.5ha(東京ドーム約 3.7 個分)に及ぶ園内には、廃仏毀釈などによる荒廃から守るため、京都や鎌倉などから移築された歴史的価値の高い建造物が巧みに配置されており、古建築と自然が調和した四季折々の景色が楽しめる日本庭園です。開園当初は「遊覧御随意」を掲げ外苑を 24 時間無料開放するなど、「美しいものはみんなで一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されています。原三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観、下村観山、前田青邨らを輩出するなど、日本美術への貢献も評価されています。戦災により大きな被害をうけ、1953(昭和 28)年に原家から横浜市に譲渡されるのを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、現在に至ります。2007(平成 19)年には国の名勝に指定され、現在園内にある 17 棟の古建築のうち 10 棟が重要文化財、3 棟が横浜市指定有形文化財に指定されています。

## ◆原三溪について

原 三溪(本名 富太郎) <1868(慶応 4)年 - 1939(昭和 14)年>

岐阜県厚見郡佐波村(現在の岐阜県岐阜市柳津町)で代々に渡り、庄屋をつとめた青木家の長男として生まれる。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、1885(明治 18)年、東京専門学校(現在の早稲田大学)に入学、政治・法律を学ぶ。1888(明治 21)年頃に跡見学校の助教師になり、1891(明治 24)年、原善三郎の孫娘、屋寿と結婚し原家に入籍。原家の家業を継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収める。住まいを本牧・三之谷へ移すと古建築の移築を開始し、1906(明治 39)年、三溪園を無料開園。1923(大正 12)年の関東大震災後は、荒廃した横浜の復興に力を注ぐ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されている。

## 施設概要

施設名	三溪園(さんけいえん)
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
連絡先	TEL 045-621-0635
公式 HP	<a href="https://www.sankeien.or.jp">https://www.sankeien.or.jp</a>
Instagram	<a href="https://www.instagram.com/sankeien_garden">https://www.instagram.com/sankeien_garden</a>
X	<a href="https://x.com/HSankeien">https://x.com/HSankeien</a>
入園料	大人 900 円 / 小中学生 200 円 横浜市内在住の 65 歳以上 700 円(本人確認書類の提示が必要)
開園時間	9:00~17:00(最終入園 16:30)
アクセス	JR 根岸線根岸駅から市営バスで 10 分「本牧」下車、徒歩 10 分 横浜駅東口から市営バスで 40 分「三溪園入口」下車、徒歩 5 分



## 本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 企画広報課 高橋・門脇・向井

TEL : 045-621-0635 / FAX : 045-621-6343

MAIL : [websupport@sankeien.or.jp](mailto:websupport@sankeien.or.jp)